

## 第16回 進路セミナー 開催

10月2日(火)に、本校で16回目となる「進路セミナー」を開催しました。  
進路セミナーとは、大学の先生方をお招きし、1・2年生を対象として講義を行っていただくという催しです。  
今年は、以下の15の分野(18大学)で実施しました。

- |               |                 |              |
|---------------|-----------------|--------------|
| ①法律 (同志社大学)   | ②経済 (大阪市立大学)    | ③経営 (兵庫県立大学) |
| ④経営 (追手門学院大学) | ⑤社会 (桃山学院大学)    | ⑥国際 (京都産業大学) |
| ⑦文学 (神戸大学)    | ⑧心理 (立命館大学)     | ⑨心理 (関西学院大学) |
| ⑩教育 (佛光大学)    | ⑪理工 (大阪工業大学)    | ⑫工学 (関西大学)   |
| ⑬工学 (岡山大学)    | ⑭環境・生命 (大阪府立大学) | ⑮薬学 (近畿大学)   |
| ⑯看護 (甲南女子大学)  | ⑰情報 (甲南大学)      | ⑱農学 (鳥取大学)   |

生徒は普段高校では学べない分野の講義を聴くことができ、将来の進路選択の一助になりました。  
以下に生徒の感想の一部を掲載します。

### 〈経営〉

セミナーを受ける前は、経営学と経済学の違いをあまりよく分かっていなかったけれど、高階教授のお話を聴いて、経営学と経済学の違いだけでなく、商学と会計学との違いや、経営学がどのような学問なのかということを理解することができました。経済学の分析視点がマクロ(巨視)的であることに対して、経営学の視点はミクロ(微視)的であるという説明がとても分かりやすく、一気にその2つの学問のざっくりとした違いを理解することができました。また、経営学はお金儲けのための学問ではないということもしっかり理解して進路選択をするべきだと再認識することができました。

興味深かったのが、報酬の有無でモチベーションが大きく変わることです。差別的出来高給制度とアンダーマイニング効果を経営学の大切な用語として覚えておこうと思いました。経営科学系の利点なども聴くことができたので、今後の進路選択にこのセミナーを活かしていきたいと思います。

### 〈教育〉

今回のセミナーは、自分の将来にとって本当にためになったと思います。教師という職業を目指すにあたって、自分が今何をすればよいのかということを見つめ直す良いきっかけにもなりました。講師の高見先生の、「教師にとって一番大切なことは、すべてを与えるのではなく、その生徒自身が持っている良さを引き出すこと(ファシリテーション)だ。」という言葉が一番印象に残っています。いじめといじりの違いや、いじめられキャラについての問題などを、6人グループでの話し合いで互いの意見を共有することで、教師に求められているものが少しは見えてきたと思います。先生自身の小学校教師の頃の体験を聴いているうちに、自分も教師になって、たくさん子ども達とこんな関わりを持ちたいという気持ちがより一層強くなりました。AO入試に対する対策としても、話し合いの能力を高めることや、時事的な出来事をセンシティブにとらえるということが大切になるということも聴き、それも今後の参考にしようと思いました。

### 〈薬学〉

最後に質問をする時間があり、そこで質問された内容について、知らなかったことが知れて、自分の身につく知識になったと思います。それは、放射線によって発症するがんと、がんを治療する放射線の違いについてです。原発などから起こる放射線によってがんを発症するのは放射線 $\alpha$ と $\beta$ の2つで、がんを治療するのは放射線 $\gamma$ であるということです。

講義の中で知ることができたのは、持っている遺伝子によって、一番効果のある治療法が異なっているということです。まさにそれは、患者一人一人に合っている治療法をするという点で、私の憧れている薬剤師の仕事と同じであり、それをいつでももっと身近で親身になれる薬剤師を私は目指したいと思いました。また、薬は人の病気を治すというイメージがとてもありましたが、今回の講義ではすべてがそういう訳ではなく、延命という目的や、症状を抑えるという目的もあるんだな、と実感しました。そして、たとえがんでも、そういった薬を上手に服用していくと、寿命も延びていく可能性が上がるので、薬はもっと進化していくと思いました。

## 〈看護〉

私は医療系の分野に興味があったので、この看護の講座を受けました。助産師の仕事は、出産に関わることだけだと思っていたのですが、すべての女性に寄りそう人と聴いて、助産師はとても素晴らしい仕事なんだなと思いました。ドラマやマンガなどで「出産は病気じゃない」というのは聞いたことがありましたが、DVDで見たように、そのような考えで自宅分娩の手伝いをしている助産師さんがいて、とても驚きました。ドラマやマンガだけの話ではなくて、そう思って働いている人がいるんだと思ったからです。

知識だけでなく、妊婦さん、患者さんと関わるための人間性が必要で、自分には人に寄りそえる程の人間性があるのかと何度か思ったことがあります。でも、助産師さんは命の誕生に立ち会える職業なので、もし自分が助産師を目指すことになったときは、妊婦さんに寄りそえるような助産師になりたいと思います。



### 社会

自転車で世界一周をした教員が語る社会学の可能性  
桃山学院大学 大野哲也先生



### 国際

国際関係学への招待  
京都産業大学 マコーマック ノア先生



### 文学

意外と身近なアラブ  
神戸大学 伊藤隆郎先生



### 工学

エネルギーを生み出すセラミック材料  
岡山大学 亀島欣一先生